

函館市

大間原発建設差止等請求訴訟

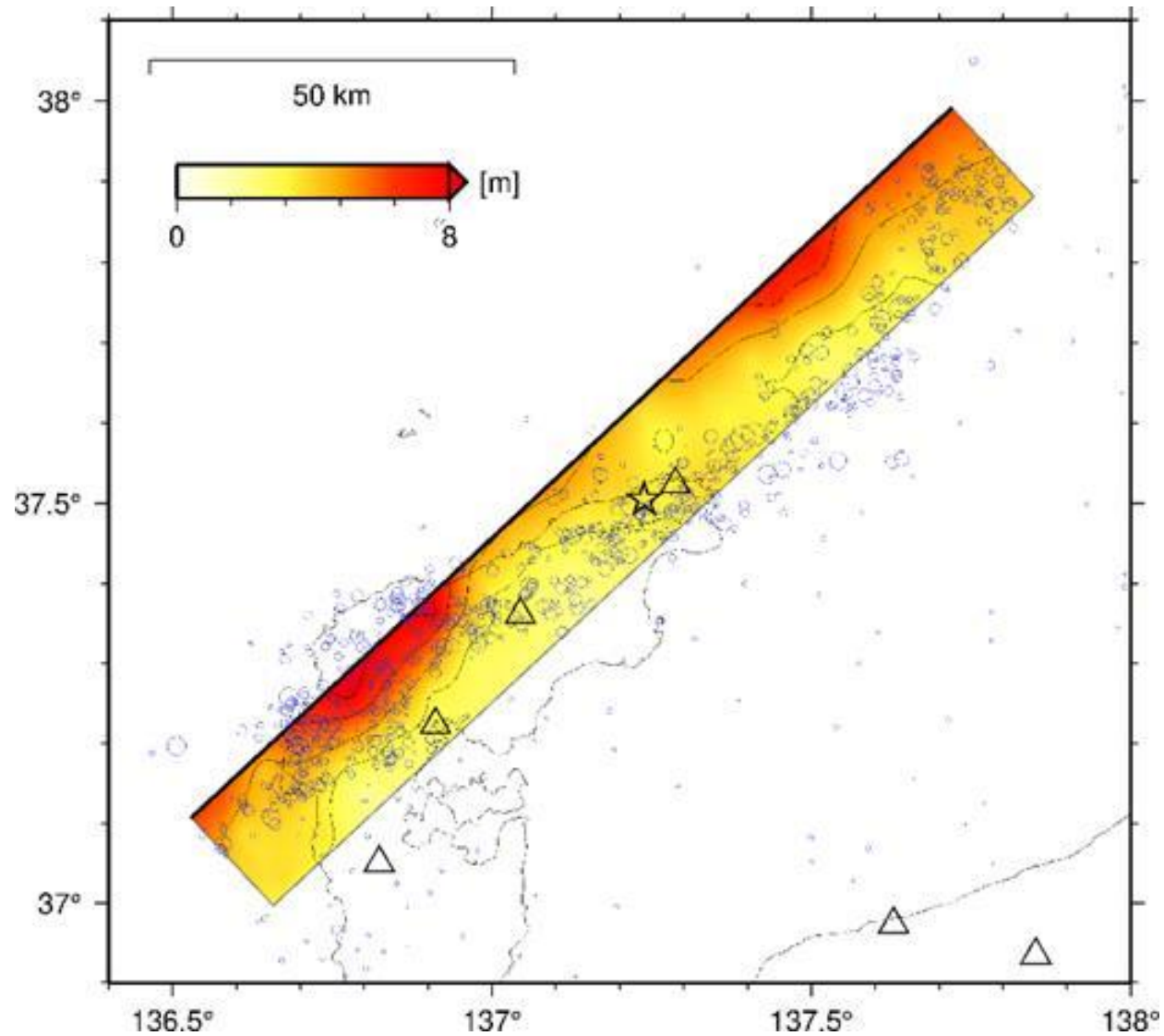
2024年(令和6年)2月26日第31回口頭弁論期日



準備書面(51)2024年能登半島地震の教訓

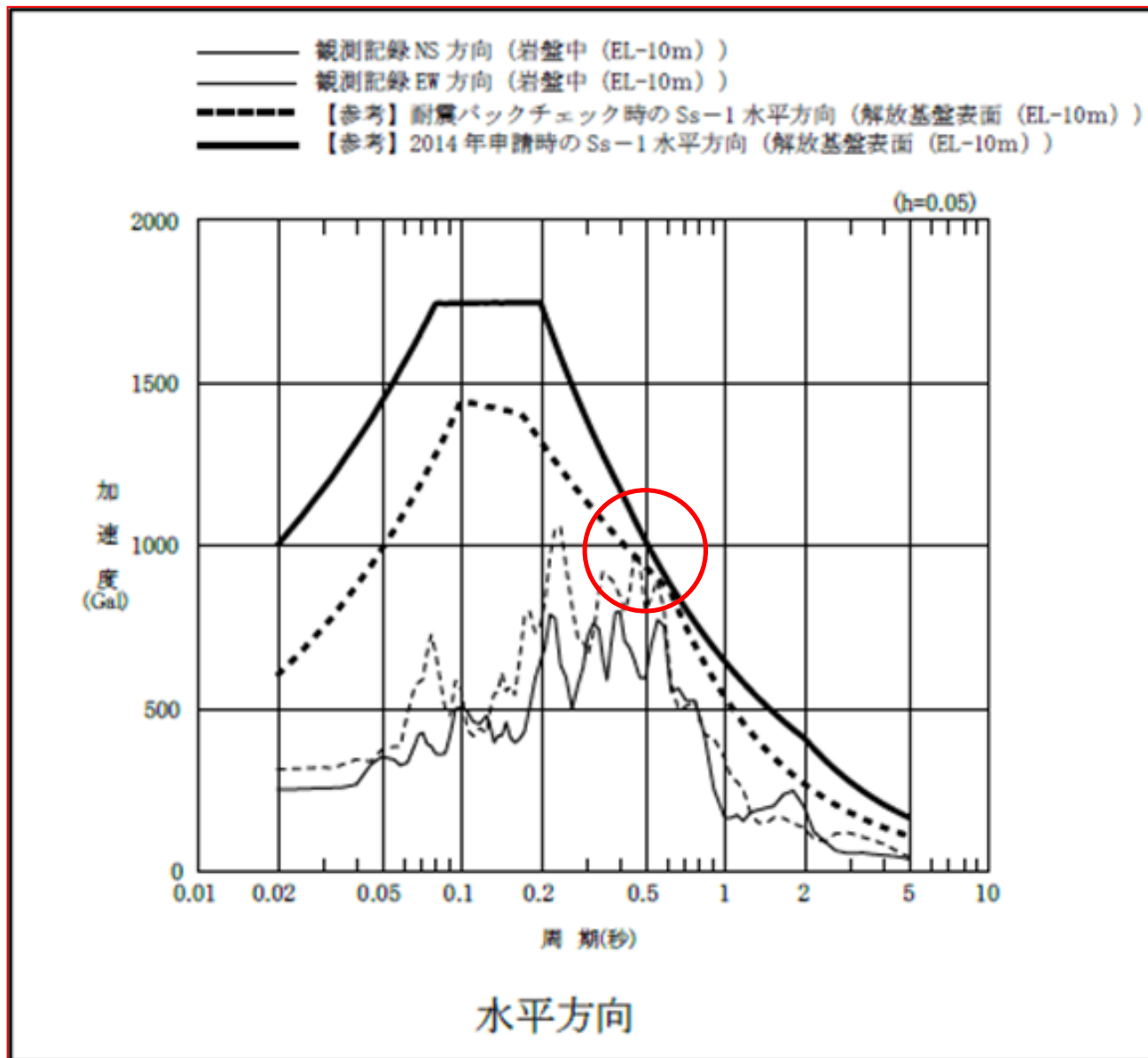
原告訴訟代理人 弁護士 井戸謙一

別紙(1)

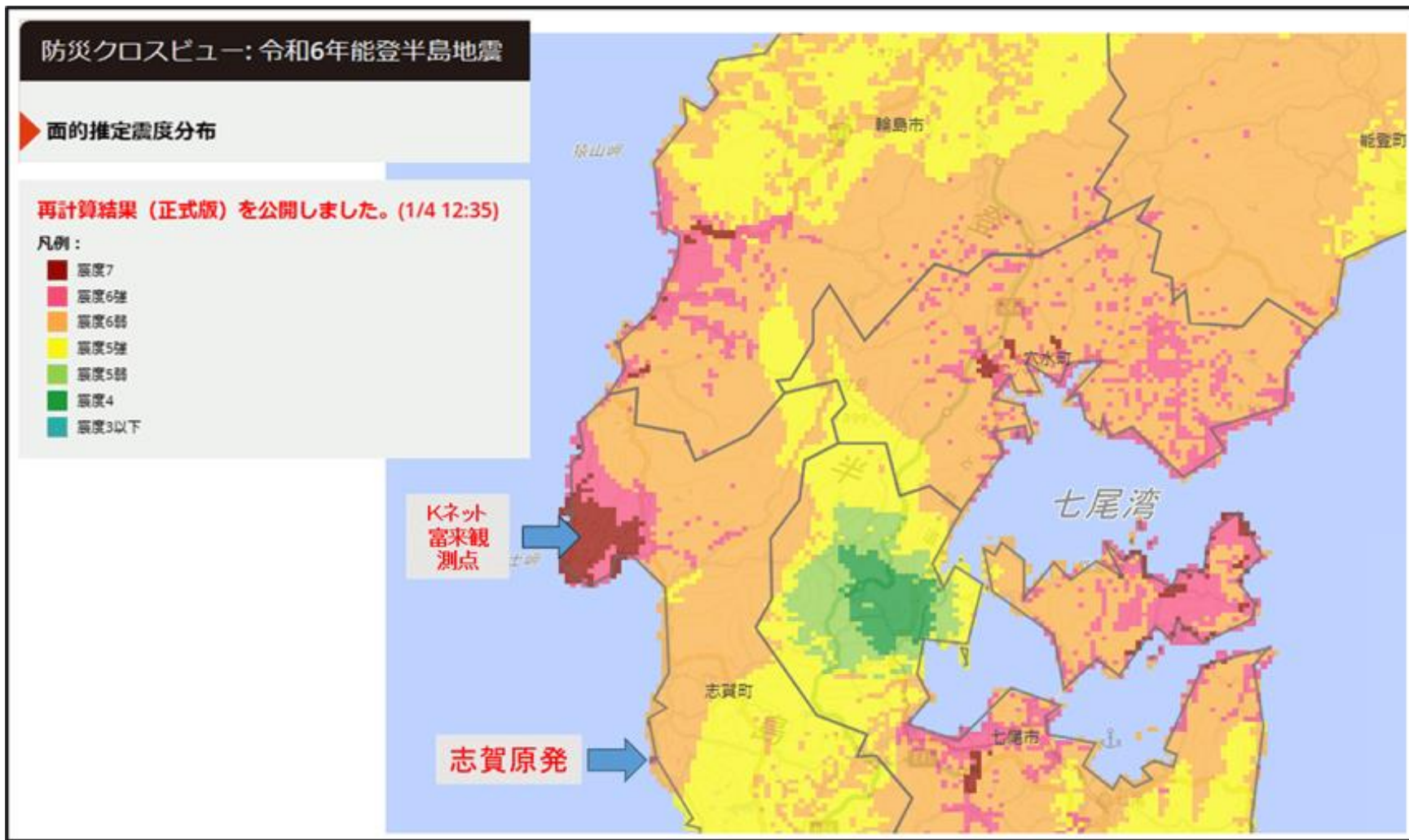


https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/topics/noto_20240101/inversion/inv_index.html

別紙(2)



別紙(3)



<https://xview.bosai.go.jp/view/index.html?appid=41a77b3dcf3846029206b86107877780>

別紙(4)

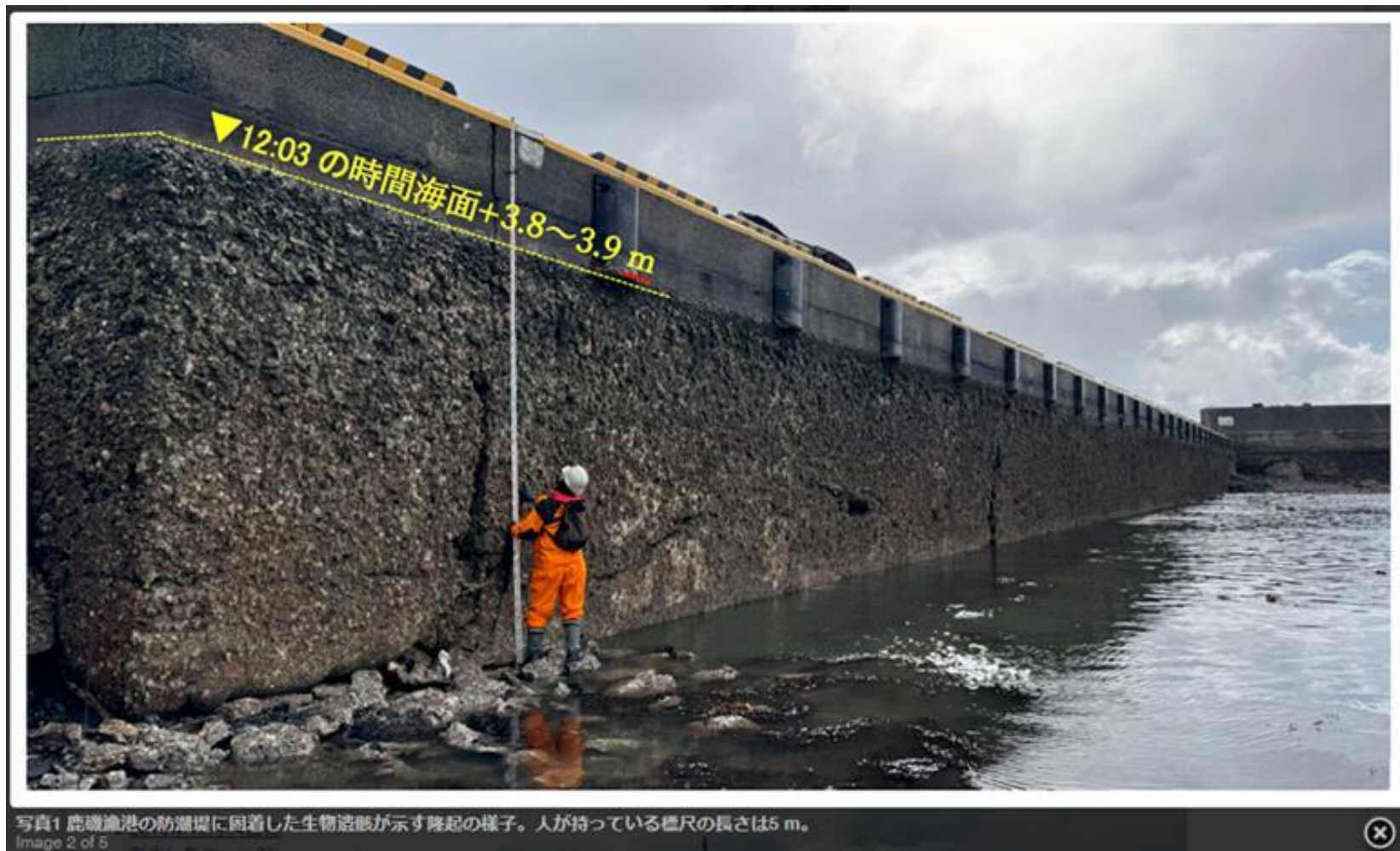
SAR強度画像で捉えられた沿岸域の陸化域 **NEW**



解析範囲全域の強度画像・RGB画像を地理院地図で閲覧

https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/20240101noto_pwr.html

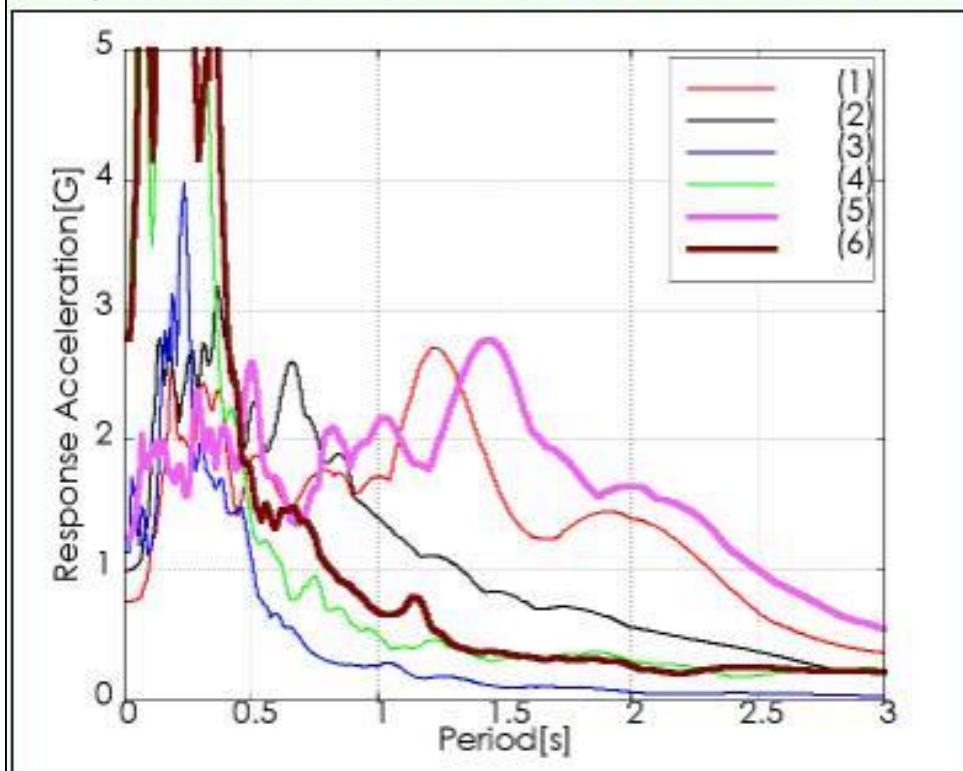
別紙(5)



https://www.gsj.jp/hazards/earthquake/noto2024/noto2024-04.html?fbclid=IwAR10wYoDSuDG2-qGnLRFv7YrQwyTwwLN6DZAAXzNKgWjDgfa_Qr5KyGR5z4

別紙(6)

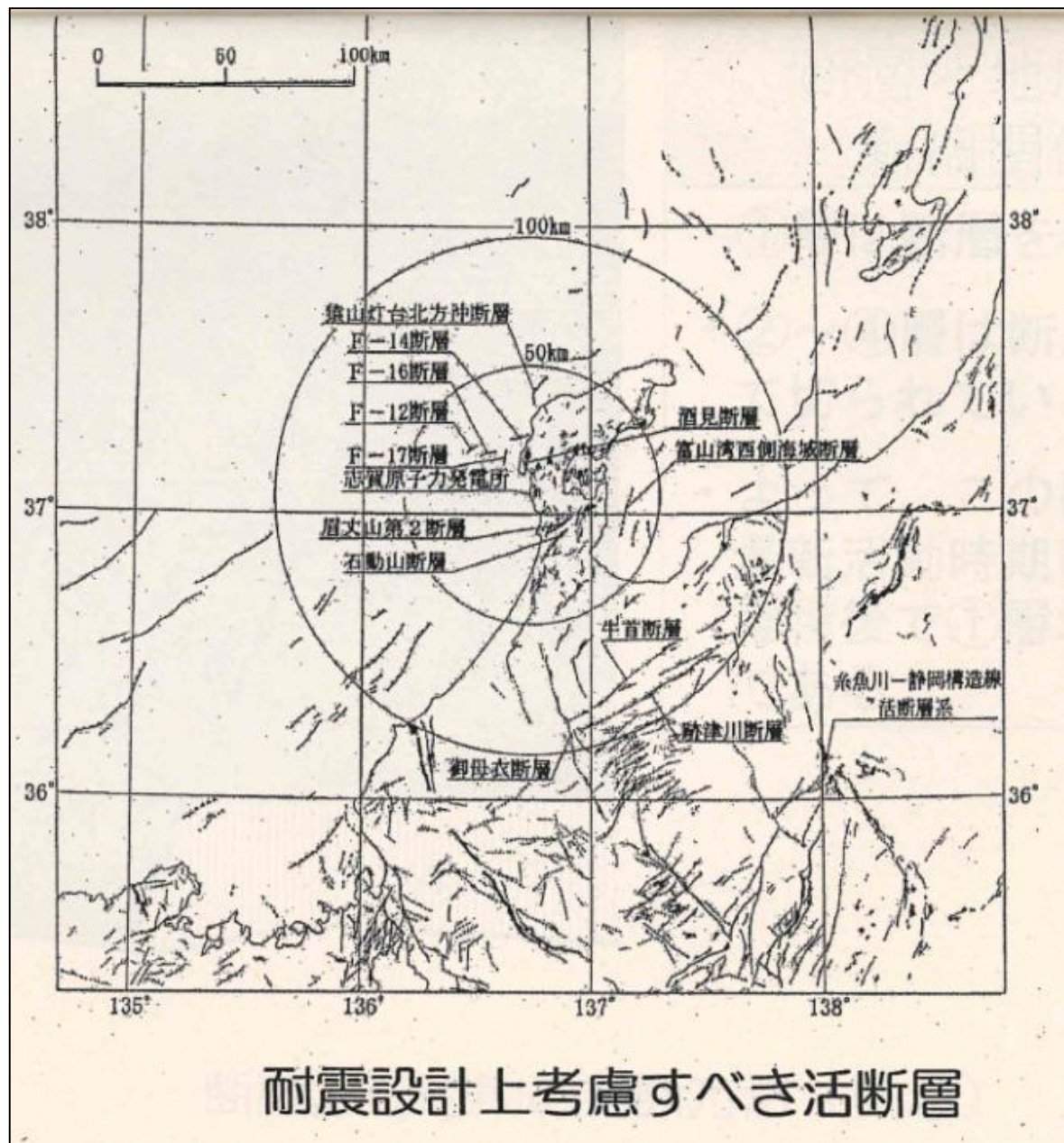
また、特に震度の大きな弾性加速度応答スペクトルを過去の強震記録と比較して示す



(1)兵庫県南部地震JR鷹取(2)新潟県中越JMA小千谷(3)三陸南JMA大船渡
(4)東北地方太平洋沖地震K-NET築館(栗原市震度計)(5)K-NET穴水(6)K-NET富来

http://higaisuitei.html.xdomain.jp/eqreport/s2401_2.htm?fbclid=IwAR1fZEQkSnchiN4ZY9D0TeHTDQ1kVMkgw21coUJbDyrh3MuWBFmipbP.JWQY

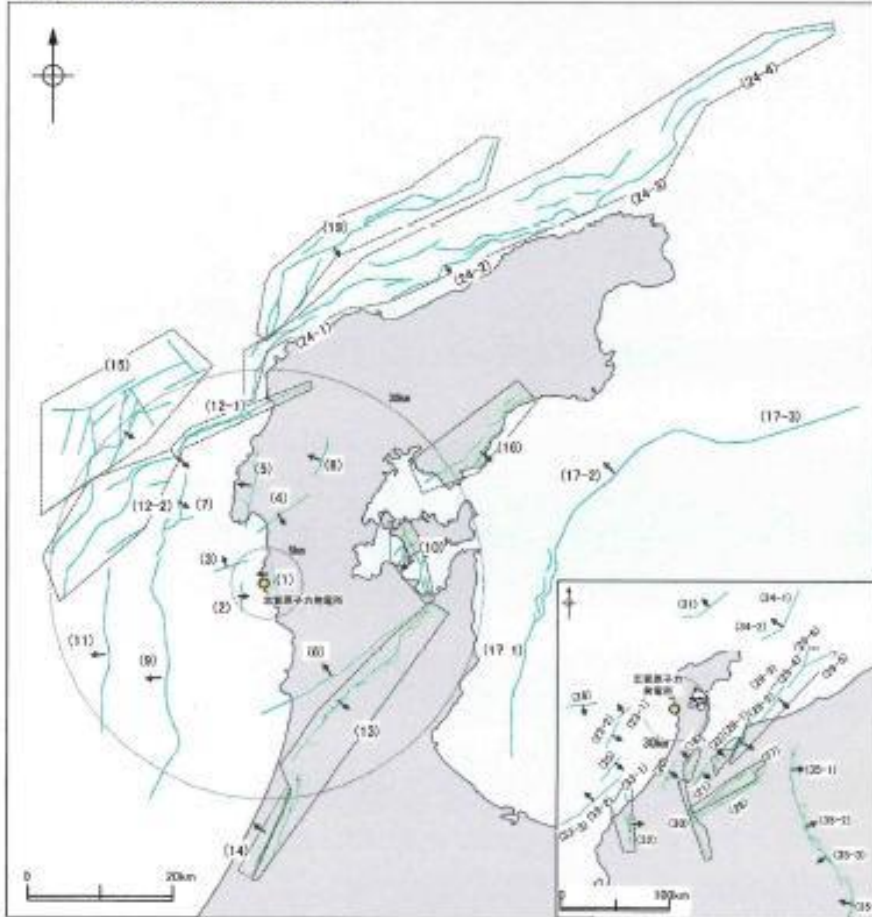
別紙(7)



Ⅱ. 敷地周辺の断層の分布と評価結果 一概要一

○敷地周辺において、震源として考慮する活断層を下図表に示す。
○なお、文献調査等により抽出した全ての断層等の評価概要をP.6～9に示す。

数字は第114号調査委員会以降、評価を見直した箇所



敷地周辺の断層の分布
(震源として考慮する活断層を表示)

敷地周辺に分布する断層は、日本海の形成時に伸張応力場で形成された高い地質構造に強く規制されており、正断層として形成されたものが、現在の東西圧縮のもと、逆断層として再活動している(インバージョンテクトニクス)と考えられている。伸張応力場で形成された正断層は、一般に高角度とされている。

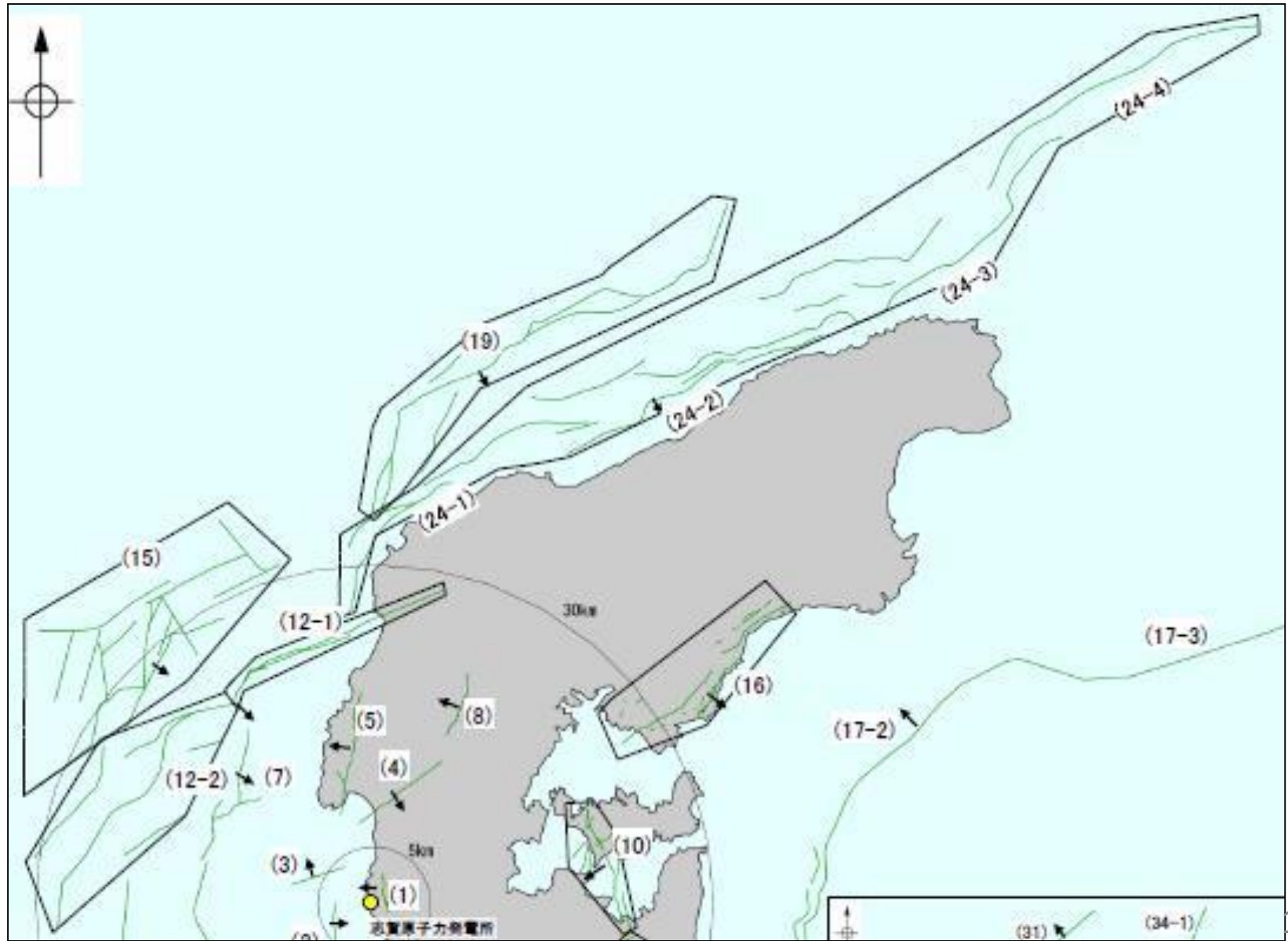
※1 ()内の数字は文献に示された長さ
※2 断層の傾斜角は、調査結果に基づくものである。
地盤動評委員会が調査評価においては、調査結果の不確か性を考慮して傾斜角を別途設定する。

震源として考慮する活断層

新層名	新層長さ	運動の評価		傾斜角 ^{※2}	備考
		運動の方向	運動の速度		
(1) 福清断層	3.2 km			70° N	第1006回、第1064回、第1166回調査委員会にて説明
(2) 栗沢沖断層	4.0 km			E	
(3) 若狭島沖断層	4.9 km			N	
(4) 高木川南岸断層	9.0 km			90° SE	
(5) 酒見断層	11.0 km			N	次回以降説明
(6) 龍天山第2断層	23.0 km			90° NW	
(7) 海士沖断層帯	12.2 km			90° SE	今回説明
(8) 高木川断層	5.6 km			N	次回以降説明
(9) 羽咋沖断層帯	33.6 km			60° W	
(10) 新島島平の沖断層帯	11.6 km			60° W	
(11) 羽咋沖断層帯	23.0 km			60° W	今回説明
(12-1) 等波沖断層帯(東部)	20.6 km	等波沖断層帯(全長) 45.5km		90° SE	
(12-2) 等波沖断層帯(西部)	25.3 km				
(13) 島根湾南縁断層帯	44.3 km			30° SE	次回以降説明
(14) 埴山-八野断層	11.8 km			40° W	
(15) 前ノ湖東方断層帯	29.5 km			SE	今回説明
(16) 飯塚断層帯	19.8 km			41° SE	次回以降説明
(17-1) 富山湾西側海城断層(南縁)	22 km	富山湾西側海城断層 79 km		30~50° NW	今回説明
(17-2) 富山湾西側海城断層(北縁)	7.0 km				
(17-3) EB	24 km ^{※1}				
(18) 等波平野断層帯(西部)	26 km			45~50° NW	
(19) 埴山沖北方断層	41 km			65° SE	
(20) 森本・富樫断層帯	28 km			40~60° E	次回以降説明
(21) 飯沼平野断層帯(東部)	21 km			SE	
(22) 島羽山断層	35 km			45° N	
(23-1) K23	16 km	K23・K24 16km・20km		60° N	
(23-2) K24	26 km				
(24-1) 埴山沖セグメント	28 km	飯島半島北縁沿岸域断層帯 96 km		60° SE	今回説明
(24-2) 飯島沖セグメント	28 km				
(24-3) 珠洲沖セグメント	26 km				
(24-4) 津田沖セグメント	28 km				
(25) K25	26 km			65° SE	
(26) K26	28 km			90° S	
(27) 牛首断層帯	18 km				次回以降説明
(28) 新津川断層帯	69 km			ほぼ垂直	
(29-1) 魚津断層帯	40 km	魚津断層帯及び飯島半島東方沖の断層帯 85 km 128 km		30° SE	今回説明
(29-2) TB5	29 km				
(29-3) TB6	17 km				
(29-4) J01	22 km				
(29-5) J02	27 km				
(29-6) J03	17 km				
(30) 御母衣断層	74 km			高角	次回以降説明
(31) NT1	45 km			50° NW	今回説明
(32) 福井平野東縁断層帯	45 km			20~40° E	次回以降説明
(33-1) FU1	6.7 km	石川湾西方沖の断層帯 65 km		50~60° N	今回説明
(33-2) FU2	21 km				
(33-3) FU3	21 km				
(34-1) NT2	37 km				
(34-2) NT3	20 km	NT2・NT3 53 km		50° NW	
(35-1) 糸島川-御間津断層帯(北縁)	50 km	糸島川-御間津断層帯(高角)断層帯 150 km		30~40° E	次回以降説明
(35-2) 糸島川-御間津断層帯(中北部)	45 km				
(35-3) 糸島川-御間津断層帯(中南部)	33 km				
(35-4) 糸島川-御間津断層帯(南縁)	48 km				

津田沖断層帯-飯島半島東方沖の断層帯(魚津断層帯)の運動の方向は津田沖断層帯の傾斜角に平行して運動するものと仮定して、今回説明する。

(別紙(9))



別紙(10)

